

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1994年6月20日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎(3956)1068

15号

「子どもの権利条約」は、ポーランドの積極的な提案（その原案はコルチャック先生が1929年に書いた著書「子どもの権利の尊重」を下敷きとしています）により1989年、国連総会で採択されました。児童の権利宣言30周年の記念すべき年に成立したこの条約は、生存・保護・発達・社会参加の4領域で総合的に子どもの権利を規定しているものです。日本では、94年3月やっと批准、この5月22日より発効です。しかし、日本の政府は、乳幼児の健診等に大きな役割を果たしている保健所を減らす計画や公的保育制度の見直し、教育における管理の強化等々、権利条約に背を向ける政策を次々と打ちだしています。権利条約の理念に矛盾することなく国内の法や制度の充実を願わずにはいられません。また、世界の内戦、紛争地で命の危機にさらされ、貧困に苦しむ多くの子供たちのいることも忘れてはならないでしょう。

94ジャブジャブ池 今年も6日間短縮で開園
7/22~8/29

昨年の夏、区のジャブジャブ池の開園期間が、予算の削減により6日間短縮されました。「今年も？」と公園課に問い合わせたところ、「皆さんの要望は重々承知しております。予算獲得のために頑張りましたが、区の予算削減方針のもとで、復活できませんでした」との回答。子どもたちにとって、夏に欠かせないジャブジャブ池だけに、ガッカリです。

陽光保育園について

PART I

① なりたち 1949年8月 青空保育開始



② 小さな小さな保育園

90坪(298㎡)に園児79人 職員29人が生活している。

③ 園庭は全部砂場有効に使っています。深さ1.5m 高さ2m 何となく穴も山も出来る。



1m以上深く掘ると赤土が出てくる、これを泥団子を作るのが面白い、磨くと本当に鉄のようになる。



④ 陽光っ子の基本的スタイル

地域の人々 とうろく 貴方です

小さな保育園でも大きな仕事

- ・板橋文化会館をまわしりうめた40周年記念。
- ・毎年やるコンサートや落語会。

⑦ はだし

自然を求め、気持ち良さ、大地をしっかりと踏みしめる、足裏の感覚を大事にして、足指を独立して、充分に使わせたい、遊びやすい、締めつけない、清潔等の面からはだしにしています。

その為には、園舎の床は全部木にして、足をいつも洗えるような足洗い場を設けています。

陽光保育園 子ども像

- ・自分考え勇気をもって行動する。
- ・積極性をもち最後までやりぬく。
- ・情豊かに相手を理解できる。
- ・仲間を大切に協力する。
- ・労働を愛し平和を愛する。

⑤ 水、土、太陽の刺激
水の刺激は、殆ど四季を問わず毎日のようにしています。夏のプール遊び、水遊びは勿論のこと、冬でも砂場の水道に群がって遊んでいます。外遊びの後、散歩から帰って来た後は必ず裸でシャワーをします。体調の悪い子、風邪をひいている子にはそれなりの対処をしますが、それ以外は1歳から全員します。冬は少し温水を混ぜることもありますが、ほぼ水で統一しています。

土はなかなか今日は触れにくいのですが、地面を深く掘って赤土を求めたり、小さい花壇を作ったり、散歩では必ず土のある公園を捜して行き遊ぶようにしています。土があれば必ず草や木があるので、触れることができた実等を拾ったり採ったりして食べます。太陽の刺激も大事です。園舎ではペラペラが割合と日当たりが良いので、そこで昼食をとったり、ペジャマを着替えたり、遊んだりします。遊びもほとんど外の遊びを重視しています。

⑥ 6年間培われてきた知・技・心。

伝統的な大型の木こまをまわす。

親子でいっしょにあそびましょう

リズム、うた、散歩、砂あそびなど

★陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に月1回、「親子でいっしょにあそびましょう」のものをおしを行っています。お気軽にご参加ください。

【場所】 陽光保育園
【時間】 午前9時~11時
【対象】 0歳児~5歳児
【今後の日程】

- ・7月14日(休)・8月3日(休)
- ・9月8日(休)・遠出をします(1~5歳児)。お弁当を持参してください!
- ・10月20日(休)・11月9日(休)
- ・12月21日(休)・とん汁大会
- ・1月10日(休)・新年もちつき大会
- ・2月9日(休)・3月7日(休)

★動きやすい服装でおいでください。無料です。
★参加ご希望の方は事前にご連絡ください。3956-1068

☆オリジナル・テレホンカードもご利用ください。
50度10000円です。
(保育園事務所にあります)

ひまわり募金

陽光保育園は一九四九年、青空保育開始、翌一九五〇年、児童福祉施設として認可を受けました。設置者は「陽光保育園母の会」です。お金もなく土地もありませんでしたが、みんなで知恵と力をだして四五年。ここまで築き上げ、地域の皆さんに育てていただいた保育園です。

汚染されているということです。蜂蜜は赤ちゃんには与えないで! 乳児ボツリヌス症というのは、生後3カ月から6カ月までの赤ちゃんが、ボツリヌス菌で汚染された蜂蜜などを飲んだ時に起こる病気です。便秘にはじまって、お乳の飲みが悪くなり、全身の筋肉がフニャフニャになって、突然呼吸が止まる、致死率3%という恐ろしい病気です。市販の蜂蜜の10~15%がボツリヌス菌に汚染されているという事です。蜂蜜が未熟な赤ちゃんの腸管の中で毒素を作り、その毒素が腸から吸収されて発病させます。0歳の赤ちゃん特有の発病の仕方です。乳児の突然死の原因の一つと考えられています。蜂蜜を与えるのは、一歳半以降が望ましいと思います。(管理栄養士 南端裕子)

★ひまわり募金ありがとうございます
(94・1・21~5・31/敬称略・順不同)
●個人 波方みどり・松崎君子・横沢昇・吉田右二・小宮肇子・岩田美恵子・渡辺道也・金親なほ子・小内康寛
●団体 陽光保育園後援会・93年度卒園児父母 ●募金箱也
☆ひまわり募金
振込口座が変更になりました
●新口座番号 00140051251667
(旧口座番号 東京4125167)
●加入者名 社会福祉法人陽光会 陽光保育園

94 共育講座

▲講演と映画
子どもの権利条約とコルチャック先生
●講師 ●新保庄三
(子ども総合研究所事務局長)
●映画 ●コルチャック先生
(アンジェイ・ワイド監督作品)

●日時 ●9月22日(休) 午後6時開演
●会場 ●区立文化会館 小ホール
●主催 ●陽光保育園

●入場無料...希望者は返信ハガキ同封のうえ左記宛てお申し込みください(先着300名様まで)。
173板橋区大谷口上町23-1 陽光保育園

▲94年度・行事予定

■夏のバザー
7月2日(土) pm1時~3時:古着市
3日(日) am10時~pm2時:食堂、喫茶、贈答品、雑貨など

■夏の交流会
8月5日(日) 外房・鶴原で海水浴

■冬のバザー
12月3日(土)、4日(日) その他、学習会、秋のハイキング、忘年会、新春落語会など計画

▲今年もやっています
●麻品回収...毎月第4土曜日
●ベルマーク...常時
陽光保育園父母の会

四月の子どもたち

一歳児の四月

四月初め、0歳児クラスから進級した六人の子どもたちは、新しい四人のお友達を迎えて戸惑い気味です。新入園児がワーワー泣き、保育の手はそちらにとられがち。それを知ってか、意外とたんたんと遊んでいるように見えますが、目はいつもチラチラと保育の方に向けられていることが多く、ひと声をかけると、やとこつちを向いてくれたとばかり、ニッコリと笑みを返してきます。

遊びにあきて行き場がなくなると、昨年までの0歳児のクラスに足が向いてしまうようです。J君は、0歳児室のドアを開けて入ろうとするのですが、赤ちゃんが寝たり、ハイハイしたりしているの、どうしようかなとばかり、しばらくじっと0歳児室の様子をうかがった後、なんと自分もハイハイして赤ちゃんの部屋に入っていました。そこで元担任に抱かれてニッコリ。J君なりに一生懸命考へての行動に、そつちは赤ちゃんの部屋ではと、お母さんには赤なつてしまいました。

新入園児は、家庭保育から来た子、他園から転園してきた子などさまざま



▲上=公園のお散歩が大好きな1歳児クラスの子どもたち 下=園庭(砂場)で遊ぶ子どもたち

入園当初はほとんど全員が抱いても何をして泣くだけだったのが、子どもも不思議ですね、新入園の〇〇ちゃんにオモチャを貸してあげると進級児に頼み、進級児がそうするとピタリと泣きやんだり、進級児にいい子いい子と頭をなでてもらって泣きやんだり、大人を媒介にして子ども同士が関わりをもち、少しずつその環境に慣れていきます。家庭保育から初めて集団の中に入ってきたM君は、お母さんと別れるときメソメソと泣いていましたが、散歩に出ると急に元気になり、「電車」とか「ブーブー」とか話しながら公園の中を元気にとびはねるようになり、今までは母と二人、きつと刺激が少なかったのでは、保育園に入れてよかったねと、保育者が目細めることもしばしばです。

二週間が過ぎると、クラスもだいぶ落ち着いてきます。お互いに名前を覚え、呼びあうようになり、仲間という意識が見えはじめ、散歩の途中で泣いて座り込んだりしている子がいると、誰かが迎えにいって連れてこようとしたら、おいでおいでと手を振る姿も見られます。そして6月の声を聞くと、泣き声はぐんと減り、陽気な声が部屋に、

「やった、とんぼ組になった!」と躍りあがって喜んで進級児たち。新入園児四名も含めて、どの子も期待に満ちた瞳がキラキラと輝いています。新しい友達、新しい部屋、新しいロッカー……と、何もかもが新しく、「とんぼ組」大きく変わったんだ」と誇らしげな子どもたちです。庭いっぱい広がる砂場では、背丈より高い砂山を作り、頂上からとびおりたり、板を立てかけてスベリ台にしたり、トンネルを掘ってバケツで水を流したり……。水たまりに橋をかけると、さつそく「トロールごっこ」。次々とトロールや山羊のガラガラドンに変身し、橋の渡りあいが始まります。

お散歩も大好きで、近くは交通公園、向原団地、養育院など。二キロほどある城北公園や東板橋動物公園には年長組の子どもたちと手をつないでいきます。五月晴れの日、「このぼり」など覚えた歌を大きな声でうたいながら歩く、とつてもよい気持ちです。そんなある日、向原団地に行ったときのこと、団地にはタンポポの綿毛がいっぱいでした。次々とフーツと空に飛ばしたり、追いかけたら、みんなで円になって一斉に息を吹きかけると、顔にぶつかって「アハハ」と大笑いです。ホールで他クラスと一緒に手遊びうたをうたい、「リズム」をするのも大好きです。三歳児は、体の簡単な動かしか方を意識的にコントロールする力がついてき



▲さあ、鯉のぼりを上げるぞ!

ています。床に寝て全身を脱力させ、腰だけを左右に動かす「金魚」が上手になってきました。三歳半前後でできる「スキップ」も大好きで、できる子どもはまだの子ども、ピアノの曲に乗って笑顔でや

胸弾ませる三歳児

言葉も豊かになり、友達と一緒に遊ぶのが楽しい三歳児ですが、時々いやなことがあるとパンチやキックがとびだすことがあります。また、午睡のときには着替えの遅いお友達を迎えにいたり、給食のときは食事をテーブルに運んだり、「お手伝い」は張りきってやっています。一人で服を着替えて片付けるとか、排泄の始末を自分でするなど、簡単な身辺処理も身につけてきた三歳児、友達の中で力を伸ばしています。

(1歳児クラス担任・大沢三鈴)

春の五歳児

鋸でラワン材を切り抜き、ヤスリで磨いて荒馬を作る年長組さんを羨ましそうに眺めていたうさぎ組のみなが、四月、ようやく進級し、年長クラス・かもしか組になりました。かもしか組になると、まず二泊三日のお泊り保育(松原村)、竹馬、伊豆ヶ岳登山、と子どもにとつてもワクワクするような取り組みでいっぱい「がんばるぞ」「やってやるぞ」という気持をみながら進んでいるところです。四月はグループごとに四尾の鯉のぼりを作って屋上に泳がせました。自分たちで作った鯉のぼりが空高く泳ぐ姿は、まさに子どもたちにとつて誇り高く感じられるものでした。さわやかな五月のある日、小走りで三〇分、加賀公園まで行きました。中央にデーモン!と築山、ちよつとした山登りの気分が味わえる公園です。到着するや間髪いれず一直線によじのぼり、反対側の斜面をとこどころとんだり、くぐったり、走ったりして降りていきます。築山全体を使って「どろけい」(泥棒警察ごっこ)

もやりました。子どもたちは意外や泥棒になりたがらず、泥棒のおはしが回ってきた保育士たちは逃げるのに必死。階段を利用したりして何とか警察をまこうとしてもまききれず、とうとうつかまってしまふ一幕も。子どもも保育も汗まみれになってあそびました。こうしたあそびを通して、大勢の仲間と力を決め、役割を決め、関わりあいが工夫をこらし、さらにはあそびを面白く発展させていく力がついでれば、五歳児としてのペースはかなり確かなものになってくるでしょう。場を踏んで力をつけていきたいと思います。

Aグループは食事が始まるのが遅くなりがちです。その日もそうでした。他の三人の子はT君をテーブルに呼んでようやく辛抱強く話しかけます。まだ全身シャワー(清潔と鍛練のため、毎日昼食前に行っている)をやっているT君は、やおら立ち上がり、衣類を脱ぎはじめました。T君が体を拭いたあと、はきやすいように、三人はパンツとズボンと並べたうえで目を手で覆い、「もういいかい」などといって待っています。T君が喜んでカーテンに隠れると、「アレ、T君がいらない、どこへ行ったんだらう」と、とぼけたふりです。三人。T君はすっかりご機嫌になり、Aグループの少し遅い昼食が始まりました。心暖まるひとときでした。(5歳児クラス担任・原芳子)

我が家では、洗濯が「お父さんの出番」



「どうしても日光にいたい」という妻と、「近くにたくさん保育園があるのに、わざわざ遠くにいかなくてもいいのではないか」という私。最後は「乳幼児期の保育が、子どもの成長にとってどんなに大切か」という妻の説得に負け、日光保育園への入園を決めました。日光まではバスで二〇〜三〇分かかります。子どもをだっこして毎朝バスに乗るわけですが、時々出会っていた乗客の方に「お子さんはどこかお悪いのですか」と聞かれたこともあります。さすがに保育園の通園とは思わけてなかつたよう、病院に通院しているかと誤解されていたわけ

今、史織は日光が大好きです。朝、「保育園に行こう」と声をかけると、「オイクン」といいながら、いそいそと玄関に走って行き、自分でくつを履き始めます。四月から新しく来た友達の名前は、親よりも早くおぼえます。そんな姿を見ると、少々苦勞があつても「日光に入園させて本当によかつたな」と思います。今回「お父さんの出番」というテーマで原稿を依頼されました。ちょっと困りましたが、我が家では、洗濯が私の任務なので、そのことを少し書きます。いろいろな方の話を総合すると、日光からいただく毎日のプレゼント(汚れ物)は、他と比べてもとりわけ多いとか。一日洗濯をしないと、カゴはあふれてしまうので、夜中に帰った時でも洗濯だけはと思ってやります。近所の方から「あの家は奥さんが病気のなか」と思われはしないかとびくびくしながらペランダに干すわけですが、そう思ってしまう自分はまだまだ修行が足りないかと反省もしているわけです。

「お父さんの出番」。本当に大切なテーマだと思えます。ここ数年、「女性の社会進出・政治参加」ということが、マスコミでも目に見えるかたちでとりあげられるようになりました。そこで、私は思うわけです。今、いよいよ「お父さんの出番」だと、男が目に見えるように「家事・育児」に参加する時代だと。おりしも、今年「子どもの権利条約」が批准された年、国際家族年の年だ。しかし、こんなことをいっていると妻から、「ごたくはいいから、洗濯ちゃんとやってよね、洗いのもたまにはやってよね」といわれそうです。だから、このへんでこの駄文を終わりにさせていただきます。(1歳児クラス・史織の父西村哲)

